

インターネットと子どもたち

利用方法みんなできえて

夏休みは子どもたちにとって楽しい季節。しかし、長い休みの間を有意義に過ごすことが大切です。特に近年、インターネットにかかわる事件が多発し、子どもたちが巻き込まれる危険性もあります。今回は、小中学校のコンピュータ教育の現状やモラルについて、市教育研究所で話をお聞きしました（担当は市民編集委員・三輪、大沢）。

問い合わせは広報広聴課 890 6642へ。

子どもたち

ネット社会の一員

近年、わたしたちの生活も情報化が進みます。携帯電話やインターネットなど、驚くほどの速さで普及してきました。日常生活の中に、ネット社会が浸透していることを強く実感します。

未来を担う子どもたちもネットワーク社会の一員として、こ

学校間にも

ネットワーク

こうした状況为了避免することはできません。ネット社会の光と影を、家庭や学校で教育することが大切ではないでしょうか。

市教育委員会では、平成九年から教育情報ネットワークの構築に着手してきました。このネットワークは、インターネットへの接続を含めた市内各小中

情報教育に

取り組んでいきます

校・教育機関などを結ぶ情報通信ネットワークで、MNET（メネット）と名付けられています。昨年からシステムを更新し、市内全校が光ファイバーで接続される予定だそうです。

小中学校でのコンピュータ教育の必要性は、大きく分けて二つあります。



テニスに汗を流す子ども 心身ともに健全な成長を

一つは情報教育で、コンピュータの活用能力を育てることです。道具として使いこなせることが必要です。もう一つは、学習に役立てること。インターネットを活用し得られる情報は膨大です。また、コンピュータを

利用することで、分かりやすく楽しく学習することもできます。さらに、学校のホームページで学習成果を発表したりしているところもありました。コンピュータは使い次第。上手に活用すれば便利な道具なのです。